

MIS050-P03

会場:コンベンションホール

時間: 5月23日17:15-18:45

2010年2月27日のチリ中部地震の震源過程等の解析結果について

The mechanism of Central Chile earthquake in 2009

上野 寛^{1*}, 瀧山 弘明¹, 碓井 勇二¹

Hiroshi UENO^{1*}, Hiroaki KATAYAMA¹, Yuji USUI¹

¹気象庁地震火山部地震予知情報課

¹Japan Meteorological Agency

2010年2月27日にチリ中部沿岸で発生したMw8.8の地震が発生し、甚大な被害を生じた。日本でも最大1.2mの津波が観測された。この地震について、CMT解析、W-phase解析、遠地実体波を用いた震源過程解析を行ったので報告する。

海外の波形データを用いてCMT解析及びW-phase解析を行った結果、本震のメカニズム解は東西方向に圧力軸を持つ低角逆断層型であり、この地震は南米プレートとその下に沈みこむナスカプレートの境界で発生した地震と考えられている。Mwは8.8であった。CMT解の2つの節面のうち、低角逆断層の節面上のすべり分布を、遠地実体波を用いて解析した。震源解析結果から推定される断層の長さ約500km、幅200kmであり、最大すべり量は約8m~11mであった。主な破壊は初期破壊開始点から浅い方向及び北側に約100秒かけて進行したと思われる。

謝辞：CMT解析及び震源過程解析ではIRIS-DMCにより取得した広帯域地震波形記録を使用した。また震源過程解析にはKikuchi and Kanamoriのプログラムを使用した。

キーワード:チリ,震源過程解析, W-phase, CMT

Keywords: CHILE, source rupture process analysis, W-phase analysis, CMT analysis